

第3回くまもと未来会議 議事録

日 時：平成22年1月18日(月) 17:00~18:30

場 所：都道府県会館 402会議室(東京都千代田区平河町)

テーマ：「品格あるくまもと ~九州の拠点を目指して~」

出席者：小栗 宏夫 委員 (熊本経済同友会 代表幹事)
姜 尚中 委員 (国立大学法人東京大学大学院情報学環 教授)
斉藤 惇 委員 (株式会社東京証券取引所グループ 取締役兼代表執行
役社長)
崎元 達郎 委員 (国立大学法人熊本大学 顧問)
橋田 紘一 委員 (株式会社九電工 代表取締役社長)
坂東 真理子 委員 (昭和女子大学 学長)
細川 佳代子 委員 (認定NPO法人スペシャルオリンピックス 名誉会長)
松島 正之 委員 (クレディ・スイス証券株式会社 会長)
蒲島 郁夫 議長 (熊本県知事)

【事務局】

それでは定刻になりましたので、ただ今から第3回くまもと未来会議を開催させていただきます。私、本日、事務局を務めさせていただきます熊本県総合政策局企画調整課の神谷と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、委員の皆様の御紹介をさせていただきたいと存じます。この会議は平成20年8月に設置いたしました。委員の任期が1年となっております。この度、委員の改選をさせていただいております。設置当初の委員8名の皆様に引き続き委員に御就任いただきましたし、今回から新たに細川佳代子様に委員に御就任いただいております。改めまして私の方からお一方ずつ、御紹介をさせていただきたいと存じます。お手元に委員名簿の方をお配りしてございます。そちらに沿って順に御紹介申し上げます。

熊本経済同友会代表幹事 小栗宏夫様

国立大学法人東京大学大学院情報学環教授 姜尚中様

株式会社東京証券取引所グループ取締役 斉藤惇様

国立大学法人熊本大学顧問 崎元達郎様

昭和女子大学学長 坂東真理子様

認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本名誉会長 細川佳代子様

クレディ・スイス証券株式会社会長 松島正之様

なお、本日、橋田委員におかれましては、10分程遅れて御到着という連絡を受けております。さらに、JR九州の相談役 田中浩二様は、本日、所用のため御欠席でございます。

続きまして、お手元に配布しております資料の確認をさせていただきたいと存じます。カラーで熊本のロゴマークが入った「第3回くまもと未来会議」という資料、「品格あるくまもと」という一枚紙、こちらは本日のテーマをまとめたものでございます。その下に参考資料1といたしまして、これまで各委員からいただきました意見に対します県としての取組み状

況をまとめております。次の参考資料2、こちらは本日のテーマ「品格あるくまもと」に関連します熊本県の主な動きをまとめた資料でございます。それとは別に、本日の配席図と委員名簿をお配りさせていただいております。さらに、冊子といたしまして平成20年12月に策定いたしました「くまもとの夢4カ年戦略」の「進捗レポート2009」、本日のテーマとも密接に関係します新幹線全線開業関係のパンフレットを1部、あと、観光関係のパンフレットを2部お手元にお配りさせていただいております。こちらのほうはお持ち帰りいただきまして、お時間のあるときにお読みいただければと思っております。

それでは、早速会議に入りたいと思います。これからの進行は、議長でございます蒲島知事をお願いしたいと思います。知事お願いいたします。

【蒲島議長】

皆さん大変お忙しいときに、この未来会議に御出席いただきありがとうございます。とりわけ、遠方から駆け付けてくださいました小栗委員、それから崎元委員、それから、もう少ししたら橋田委員もいらっしゃると思いますけれども、ありがとうございました。

今回から新たに、細川委員にメンバーに加わっていただきました。そこで、細川佳代子さんから一言御挨拶をいただきたいと思っております。

【細川委員】

ただ今、御紹介いただきました細川佳代子でございます。今日がデビューでございます。知事さんを囲んでこの様な少人数の委員が熊本の未来について意見を述べ合うという素晴らしい会の一員として参加できますことを大変光栄に思います。産官学の出身でもございませんで、全くの一市民でございますし、ただ、少しがんばってきたと自分で思っておりますのは、ボランティア活動といいますか、市民運動をずっと長年続けてきたというそれだけしか取り柄がない私でございますけれどもよろしくお願い申し上げます。

それともう一つ、大変心細いのは、十数年前に居を東京の方に重点的に移してしまいましたために、最近の熊本の情報にくらいということで、的確な意見をどこまで申し上げることができるかちょっと自信がございません。むしろ、このことをきっかけに少し熊本に目を向けて、熊本県民として新たに第一歩を踏み出して、熊本の発展のために少しでもお手伝いをさせていただけたらうれしいなという思いで、この委員を引き受けさせていただきました。いろいろな意味で大変未熟者でございますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【蒲島議長】

この「くまもと未来会議」は、私が知事に就任した平成20年に設置し、その年の10月、翌1月の2回、会議を開催しております。その際、委員の皆様から大変素晴らしい意見をたくさんいただきました。今回、その後の県内での取り組みなどを簡単にまとめておりますので、まずはお手元の参考資料1をご覧ください。その取り組みについて神谷課長のほうから少しピックアップして御紹介ください。

【事務局】

事務局のほうから御紹介をさせていただきます。過去2回、会議を開催させていただきました

して、その中で委員から様々な御意見をいただいております。

その中から主なものをピックアップして御説明申し上げますと、まず、農業への企業参入を進めるべきではないかという御意見をいただいたところでございます。こちらにつきましては、それを専門に担当いたします課、農村・担い手支援課を新設するとともに、庁内プロジェクトチームを知事特命で設置いたしまして進めておるところでございます。現時点で、9社新たに参入していただくという成果をあげておるところでございます。さらには、熊本の農業というのは素晴らしい魅力があると、その中でブランド化を進めていくべきではないか、輸出を進めていくべきではないかという御意見を賜っております。こちらにつきましては、商工観光労働部に担当いたします専門の局、観光経済交流局を設置し、組織体制の強化をいたしまして、蒲島知事を先頭に国内外でトップセールスを展開しておるところでございます。

さらには、クリーンエネルギーなどの代替エネルギー、環境に配慮したエネルギーというのを産業として発展させていくべきではないかという御意見をいただいたところでございます。こちらも知事の特命で、太陽光発電、こちらは住宅用になりますけれども、日本一を目指して、ソーラーに関しますプロジェクトチームを設置いたしまして、現在、精力的に取り組んでおるところでございます。さらには、人材育成の面では、夢のある教育に取り組むという姿勢を強めておりまして、知事の指示に基づいて「熊本私学夢プラン」という私学振興を図るための夢のあるプランの策定に着手しているところでございます。非常に簡単でございますが、以上でございます。

【蒲島議長】

もう一つだけ私から付け加えさせていただくと、農商工連携の中で米粉プロジェクトというのがあります。何で米粉かということ、米を食べてほしいと、そして米を食べることで、休耕田、耕作放棄地を一掃したいというのが私の希望でありますので、米の消費拡大。そこで、米粉でつくったパンをたくさん食べてほしいし生産してほしいということで、その農商工連携を行っております。給食で週に1回、米粉パンを熊本の学校の生徒たちが食べておりまして、16万食それをつくっています。そうやって小学校、中学校から米粉を食べれば、大人になっても米粉を食べるんじゃないかというのが私の希望でもあります。

ところで、今日の会議は「品格あるくまもと ～九州の拠点を目指して～」をテーマに意見交換をお願いしたいと思います。今回このテーマを設定した趣旨を簡単に御説明いたしたいと思います。お手元の資料をご覧ください。来年3月、九州新幹線の全線開業が間近に控えており、熊本では今、開業に向けた準備が進んでおります。また、本年3月には、熊本市が、植木町、城南町の2町との合併により人口70万を超えることになりました。そして、政令指定都市に向けた動きも本格化しております。

このような中、私の夢は、新幹線、そして政令指定都市、その後、州都を目指すと、そのような夢を県民と共に持ちながら、そこに至る道のりを一緒に楽しみたいなと思っております。道州制がいつ実現するか分かりませんが、そのような夢を持つのと持たないのとの差はとても大きいと思いますので、州都を目指すと。その州都を目指す過程で「品格あるくまもと」が形成されるのではないかなと思っています。委員の皆様には、熊本、九州、日本、さらにはアジアと、幅広い視点、様々な角度から御意見をいただければ大変うれしく思

います。

なお、「品格あるくまもと」は、平成20年12月に策定しました「くまもとの夢4カ年戦略」の4つの柱の一つであります。御参考まで戦略の「進捗レポート」をお手元にお配りしております。また、テーマに関連しました最近の熊本の動きをまとめ、参考資料2としてお配りしております。そちらも御参考にしていただければと思います。

以上、今日はテーマを「品格あるくまもとづくり」に絞って、自由にお話いただければ幸いです。まず、小栗さんのほうからいかがでしょうか。

【小栗委員】

今回会議のテーマは「品格ある九州の拠点を目指していこう」ということで、客観的にそれを実践するために何が必要なのか、いろいろと考えさせていただいたわけですが、やはり九州の拠点を目指すためには、九州内、国内、またアジアで認知されなければならない。そのために何が重要かということ、やはり、産、官、学、県民が一体となって取り組んで、求められた拠点をつくっていくということだと思えます。

これから新幹線が全線開通します。また、政令指定都市が2年後には予定されている。そういう段階で、拠点性を高めるためには具体的にどういう点について考えていくかということですが、やはり、九州の時間的距離の中心地であり、この位置を十分に活用して、広域からの誘客、事業運営拠点としての効率性、経済性について、市場からの評価を高める対策を実行していくことが重要ではないかと思えます。基本的に、熊本県の経済活性化を図っていくことが非常に大事だと思っています。

そこで、4カ年戦略の中で謳ってある農林水産物生産加工拠点、観光面での拠点、アジアのものづくりの拠点、そして、新幹線が来ることによる定住圏。そのためには、拠点機能を高めるための交通基盤の整備、そして、もう一つは情報拠点としての九州での役割を強化していくことによって拠点性を高めていく。このことを我々はこれから一生懸命やっていかなければいけないのではないかと考えております。

【蒲島議長】

ありがとうございます。皆さん、自由な発言もよろしいですけど、最初は一巡するという意味で、姜さんのほうから。

【姜 委員】

私、つい最近、釜山のほうに行ってきたんですけども、今、韓国の新幹線も一応開通はしているんですけど、ローカル線と併用で動いていますから、2011年にはソウルから釜山までだいたい3時間半くらいになると思います。そうすると、例えば、ソウルを朝早く出れば、ビートルが3時間として、九州と韓国が早い場合は一日経済圏になってしまう。ですから、ただ単に新幹線が九州で博多から鹿児島まで通じるというだけではなくて、もう少しそれを延ばして海を越えて韓国の方にも。確か博多市と釜山市は広域経済圏構想というのを進めているらしいんですけど、どちらかということ韓国の南側と九州との一体化を、僕はもうちょっと進められるんじゃないかと。

韓国経済は、ウォンが随分安くなりましたけれど、今ちょっと上がってきていて、それは

経済的なりカバリー（recovery = 回復）が非常に早いということだと思いますね。ですから、全体で4,800万の人口がいて、その中で南側だけでもかなりの人口がいますから、今、小栗さんがおっしゃったように、今後、拠点づくりという点で、もう少し九州それから熊本県、熊本市、そして同心円的に差し当たりは韓国の南側をターゲットにして。たぶん、ある程度ウォンが高くなってくると、日本に来やすくなってくるのではないかと思います。今はウォン安円高で、少し足が渋っていますけど。観光的には非常に熊本はアトラクティブ（attractive=魅力的）だし、韓国は今、ものすごく日本酒ブームなんですね。たぶん、ワインよりは日本酒のほうが消費が多いというくらいになっています。

ですから、もうちょっと新幹線の開通を一番近い韓国での新幹線の全面開通とリンケージ（linkage=結合）させて考えていく。もちろん福岡に人が集まって、そこから九州に広がっていくとは思いますが。今、日本航空の問題もありますけど、やはり熊本空港の韓国便の離発着ですね。現状がどうなっているか分からないんですが、もう少しそのあたりも積極的に考えていったほうがいいのではないかなと。単にソウル、釜山だけではなくて、韓国のローカルなエアポートがあれば、そことの関係も考えていく、そんなことをちょっと考えています。

【蒲島議長】

ありがとうございます。南の方になりますかね、忠清南道は。

【姜 委員】

そうですね。

【蒲島議長】

忠清南道とはですね、「百済」という関連で熊本と、とても近い姉妹都市でもあるんですね。それで、来年、私も「大百済典」に行く予定で、そこでたくさん熊本から連れて行こうと思っているんですけども。是非そういう文化的な意味での交流も進めていければと思っています。それでは斉藤さんよろしくお願ひします。

【斉藤委員】

「品格あるくまもと」というので坂東先生にお願いしなきゃいけないんでしょうけども、我々の立場から見ますと、今言われていますように、サスティナビリティ（sustainability = 持続可能性）という地球規模の問題に現実的にぶつかりつつあると思うんですね。世界で1955年に25億いた人口が、50年ちょっとで60億に今、なっていますが、計算ではこれがあと50年で90億になるということです。1955年から2010年までの間に、我々がやってきたようなビジネスモデル、いわゆる大量生産、大量消費というかたちの成長路線というのは、ほとんど不可能というふうに思うんですね。水、空気、天然資材、資源、もう既に取り合いが始まっていますけれども、必ず我々はインパス（impasse=難局）にぶつかると思います。

「品格あるくまもと」の一つの行き方は、前から何回もここで討議になりますけれども、やはり、自然、教育、医療というようなことがテーマになるのではないかと考えております。

あまりこんなことをいうと関係者に怒られますが、どちらかという私は、ものづくりでかくするというのは、もう日本自体が基本的な問題にぶつかっていると思います。御案内のように、世界人口は90億に、30億くらい増える。この間に、日本では3,000万人、人口が減っていくということはどうしようもない事実でありますから、我々はどのような日本、あるいは熊本というものを考えなければいけないかということだと思えます。

一つは、やはり前から言われていますように、熊本は、教育というのが環境的にも地理的にもフィットしているように私は思います。大分にある、スリランカの人がやっている立命館アジア太平洋大学、残念ながらどんどん日本人が減ってしまって、ほとんど全部アジア人になりましたけれども、学長さんと時々話していて、何でこれが大分だっけいつも思うんですね。何で熊本じゃないんだろうかなと。そういうものを一つ感じるのと。

こんなこと言うと非常に差し障りがあるんですけども、熊本出身で、東京でいろいろ官庁関係の仕事をしていまして、いないんですね、熊本の人。例えば、役所を見て、熊高を卒業してきている人という方でも数名しかいません。私も政府の仕事と一緒にやっていると、これはいいか悪いかは別なんですけど、東京大学を出ているというのはまず当たり前で、高校で話しているわけですね、麻布だ、教育大付属だ、なんだかんだって。それで、役所との話も、そのペースで話している。ここに熊本の人、一人もいないですよ。それがいいか悪いか別ですけども、熊本から人材輩出して、別に東京だけじゃないんでしょけれども、要所に熊本県人がいろいろ活躍するというのは、私はあってほしい姿なんです。ですから、それは別に受験をどうというのではなくて、もっと広い意味の教育というものを一つやってみてはどうだろうと。

私は医療というのを前にも申し上げましたけれど、シンガポールとか韓国がやっているような医療センターですね。姜先生がおっしゃったようにJALが問題にぶつかっていますが、今、国交省の頭が切り替えやすいと思うんです。今までは御案内のように、韓国とか中国から自由に飛行機を飛ばせられなかったんですよ。これはもうバカみたいなレギュレーション(regulation=規制)を日本は置いておまして、チャーター便だけなら飛ばせられるんですけども。自由に出たり入ったりできないんですよ、航空行政というのは。そんなことやっているから、こういう問題が起こったわけでありまして。民主党にたまたま政権が代わっていますので、いいチャンスじゃないかなと思います。それで、航空機や新幹線を使って、九州の方、アジアの方が素晴らしい医療センターに駆け付けられると思います。シンガポールの医療センター、韓国につくられた医療センター、この真似でもいいから、私は熊本につくるべきだと思います。医者が足りないとかそんな問題ばかりガーガー言ってもだめですね。私は、本格的な医療センターを置いたら熊本のバリュエーション(valuation=評価)は非常に上がるんじゃないかと思っております。

【蒲島議長】

ありがとうございました。私も知事になって分かりましたけれども、知事部局と教育委員会って意外と遠いんですね。それで、「私学夢プラン」というのは、私学のほうがより一緒に仕事ができやすい環境にあるので、今、私学の底上げといたらおかしいですけど、がんばって今、私学振興をやっているところです。

それから医療センターも、全く私も同感で、今、熊本の医療レベルはとても高いんです。

日赤、それから、昔の国立病院（現 熊本医療センター）、済生会、それと、そのトップにある熊大の医学部。これが連携すれば、最高のレベルの医療を提供できていると思っています。そういうのが連携できるようなかたちであればいいなと。私も、医療大県を是非目指したいと思っています。崎元先生いかがでしょうか。

【崎元委員】

齊藤委員が言いにくそうにされたのは、熊本大学が・・・というイメージかと思っておりますけれども。熊本大学もそれなりにがんばっているつもりですので、それはそれで置いておきまして。

ちょっと齊藤委員とはニュアンスが違うのかもしれませんが、今までのここでの議論であったように、10年、20年先の、その姿が、農業とか自然とかいうことであるんですけども、そこに行くまでの間をどうするかということでは、今のものづくりを必ずしも捨てられないだろうという意識を持っています。ですから、最終的には皆さんの意見のように私も思いますけれども、過渡的な状態で、その間、熊本県の経済をどう支えていって拠点性を高めるかというのは、小栗委員も言われたようなニュアンスが少しあるかと思うんですね。

もう一つ、私、少し土木とか橋のことをやっていますので、従来も申しあげましたように、交通基盤をもう少し整備しないといけないのではないかと。これはちょっとハードウェアになりますけども、新幹線が熊本までできても、熊本駅と空港とのつなぎ、あるいは、坪井川の舟運とかいろいろ考えていますけれども、観光する場所とのつなぎ、細かい話かもしれませんが、やはり停留していただくような仕組みですね。そして、一番大きいのはやはり九州の横断道、延岡と大分へのアクセスをきっちりつけないと州都にはなれないだろうと思います。鳥栖あたりのほうが有利になってくるような気がしますので、この点はかなり重要であり、整備を急がないといけないのではないかと思います。

国際的な展開については皆さんと同じですけれども、熊本大学のことですが、県の韓国との協定地域は、テジョン（大田）あたりですね、そこにKAIST（韓国科学技術院）という韓国ナンバーワンの科学技術の大学がありますけれども、そういうところとの協定を結んでいますし。県が協定を結んでいるところには熊本大学もいつも行って協定を結び、協力体制をつくっています。上海での県物産フェアの開催とか海外オフィスの運営等での協力をしておるところです。特に、国際的に何かするとき、やはり、いろんな組織と協力してやるというかたちをとっていくと良いのではないかと思います。最初はこれくらいにしておきます。

【蒲島議長】

どうも、ありがとうございました。では橋田さんの方から。

【橋田委員】

私は第1回会議のときから同じようなことばかり言っておりますが、やはり熊本は一次産業。中でも農業、次に水産業、そして観光。それらをつないでいくやり方の中に、今後は、新幹線も開通しますので、少し広域地域観光というものが考えられると思います。確か現在、日本政府が前原国土交通大臣の下で、日本の観光と航空の戦略を検討されていますよね。そ

の中で、広域連携した観光戦略等も立てておられるようですが、どうも北海道が対象となっており、九州は外れているようで残念です。北海道も良いのですが、やはり九州で広域地域における観光戦略というものを是非つくってほしいと思います。その中で、熊本は非常にポテンシャルが高く、最も豊富な観光資源、かつ水資源があります。それに一次産業を加えたところに熊本の発展があるのではないかと考えております。

私は去年1月に、この会議で弊社も一次産業に乗り出したいということをお願いしたのですが、今月、熊本県と天草市との間で協定を結ぶようになっております。天草の休耕地をお借りして、オリーブ産業に参入し、オリーブ産業が実際に可能性があるかということのテストプランと言いますか、3カ年間で具体的検討をするということに着手しております。もし、天草の地でうまくやれるというのであれば、イルカウォッチング、オリーブ農園、さらに、これから日本において、非常に消費が増えるだろうと考えているオリーブそのものの食料としてのポテンシャルをアピールしたいと思います。知事からも叱咤激励を受けておりますが、できれば大規模にやりたいと考えております。また、我々企業は、利益はなかなか望めないかもしれませんが、会社、法人として地域社会の発展に貢献するということと、過疎地対策、地域の振興、あるいは、安全安心の農産物をつくり自給率を高めるというミッションに合致しますので、他の企業さんもお誘いして、ある程度大規模にやったほうが経営的にも効率化になりますので、できれば幅広くお誘いしたいと考えています。

前置きが長くなりましたが、やはり熊本の水は極めて魅力的で、これを中国大陸に持って行けないかなと思います。水で金儲けをしようということではないのですが、これは一企業の問題ではなく、行政も一緒になった商工連合で水事業を行い、熊本の財政改善というか、いずれにせよ収入を増やさないと、色んなことができないと思います。

例えば、一次産業でも同じなのですが、我々と一緒にやって、熊本ブランドとしてオリーブを日本国内だけではなく、例えば中国やインドなどに輸出することも非常に可能性があると思っています。一年間研究をしてまいりましたが、我々くらいの会社でも十分、オリーブ事業が採算に乗るであろうと思っています。もう少し国の財政的な支援もあって、本格的にやれば良いのですが。今、ヨーロッパで作られているオリーブというのは、EU全部で作ったもので、日本はギリシャやトルコなどから99パーセント輸入です。恐らく、中国やインドで莫大な量を消費することになれば、日本には来なくなるのではないかと考えています。そうすると、我々が国内で生産しているオリーブが非常に価値のあるものになり、かつ休耕地の緑化、地球環境問題上のプラスになる。と中長期的にものごとを考えております。

必ずしもオリーブではないのですが、やはり何か食料品にしても、さっき知事がおっしゃってありました米の活用についても同じですが、もっと中長期で戦略的に産業界と行政と、できれば国も一緒になってやっていただければ、それを一つの起爆剤にしなから、いろんな文化施設に対する資金を回すとか、そういう財政的な基盤をつくりながら循環させていくことができるのではないかと考えています。自分のところは弱小ながら一生懸命注力し、一つのモデルをつくりたい。そして、10年もあれば概ね見通しがつきますので、なんとかやりたいと考えております。

【蒲島議長】

橋田さんは自分のアイデアを未来会議で出され、それを実証してくださっていますので、

大変期待しています。それから行政としても最大限の御協力をしているところであると思いますので、一緒にやりたいと思います。では坂東さん。

【坂東委員】

私も「品格とは何か」というのをいろいろな方から訊かれるので、今一生懸命、模範解答をつくるべく努力をしています。まず、短期的な目先の利益を追わないということが、とても重要ではないかと思います。政治家である知事としては、「そんなこと言ってたら、4年が、8年がすぐ過ぎてしまう」ということになるかもしれませんが、ぜひ長期的な視点を持っていただきたいというのが一つです。それから二つ目は、やはり自分だけがよければいいというのではなしに、県民の方たちが豊かな生活を目指すことももちろん大事なんですけれども、いろいろなハンディを持ってらっしゃる弱い立場の方たちを応援するとか、あるいは、アジアでも豊かな国につい目が行くんですけれども、まだまだ、いろいろ苦労している国々を助けるとか、そういったことが品格になるであろうと思いますし、結果的には「情けは人のためならず」で自分に返ってくるのではないかなと思います。

前置きはその程度にいたしまして、「品格あるくまもと」の要素を考えてみますと、歴史、自然、そして人だろうと思うのですが。歴史につきましては、先日も修復になった熊本城を拝見して大変感心いたしましたけれど、たくさんの資源をお持ちであるということ。「見えるかたち」になさるといのが、これからもいろいろな可能性があるのではないかなと思います。それから、自然も、水ですとか天候ですとか、ほんとにたくさんの環境資源をお持ちなんですけれども、もっとそれが景観として、これは前も申し上げたかと思うんですけれども、「あ、いいなあ」と「ほんとに緑あふるる熊本だ」「手入れが行き届いているな」と。スイスの自然というのは、自然のままではなしに手入れが行き届いていて魅力的な景観になっているように、熊本も是非「ほんとに熊本県の人たちがこの自然を慈しんで、手入れをやっているんだな」といのが分かるようなかたちに、時間がかかるとは思いますけれども、作りあげていただきたいと思います。

例えば工場をつくる時には、コストのことを考えると狭い土地でということになるのかもしれませんが、是非周りに木を植える分まで必ず買ってもらって、むくつけき(=無骨な)建物が外から見えないように森の中に植林する、そういったことの積み重ねが景観の品格をもたらすのではないかなと思います。安っぽい建物は建てるなど、ちゃんとお金をかけた立派ないいものを建てるようにしてくれというのを、いろいろな機会に訴えられたらいいのではないかなと思います。

そして最後に、人づくりの点がいちばん大事で、先ほども斉藤委員がおっしゃいましたように、エリート教育もとても大事だと思います。エリート教育は、特に全寮制の中、高あたりですと、全国で評判がよければみんなやって来るんじゃないかと思います。特に、私は、これから共働きが当たり前になってくる中で、中学生、高校生の子どもを抱えたお母さんたちにとって、そうしたしっかりした教育を与えてくれる教育機関というのは、大変頼りにされるのではないかなと思います。

それから、エリート教育とは別に、これは是非、一番、県民運動としてやっていただきたいと思うのは、全ての中学生、高校生、小学生はもうだいぶ身についていると思うのですが、中学生、高校生あたりになりますと、大きな声で挨拶をすとか、礼をすとか、きち

んと姿勢正しく行動するとかといった、その振舞い方といいますか、マナーというか、それがあやしげな地方が多いんですね。それに対して、もし熊本が、熊本の子どもたち、熊本の若武者はとつても背筋がピンとなっていて、どこへ出しても恥ずかしくないというマナーを身につけるっていうことを強調されると、非常に品格が目に見えるのではないかと思います。そして、それを学校教育でするだけではとても足りないと思いますので、ぜひ、60代後半、70代、場合によっては80代くらいの方たちに県民運動を起こしていただいて、若い人たちをしっかりと育て上げる、品格をもって育て上げる「熊本塾」のようなものを県内にたくさんおつくりになるというようなことを知事が訴えられたらどうかなと思います。

【蒲島議長】

ありがとうございます。先程の「私学夢プラン」というのは、是非そういう場に。最初から知事がとりかかれるのは私学だけなので。そこで、私学の高校生なりに、今おっしゃたようなマナー、挨拶。挨拶だけでもすごく違いますもんね。是非参考にさせていただきます。細川さんどうでしょうか。

【細川委員】

初めてで、どんなふうに進められるか全く想像がつかなかったものですから、具体論より、ちょっと漠然としておりますけれども、私の基本的な考え方を少しお話させていただきたいと思います。

「品格あるくまもと」の「品格」とは何ぞやということ少し考えてみました。今から450年ほど昔の日本に、初めてキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルがやって参りましたね。そして、その後、数十年の間、たくさんの西洋の神父様たち、宣教師たちがやって来て、日本人をどのようにとらえたかということがたくさんの書物に残っております。それから、幕末に少しずつ外国人が入ってきて、さらに、明治になって日本からも外国に出て行ったときの、外国人の日本人に対する感想というのが、ほとんど変わっていないんです。それが私は原点だと、日本人のいいところだと思っております。

まず、ザビエルの頃ですけれども、当時、まだ学校というものがほとんどない、藩校さえなかったわけです。そこで、日本でも読み書きできる人がめちゃくちゃ多いということに、まず驚いているんですね。じゃあどこで日本人は勉強していたかということ、もちろん家庭もそうでしょうし、やはり寺子屋をはじめ私塾などを中心に始まったんだと思いますが、幕末で2万校くらいあったという話です。まずそうやって、女性でも識字率が高く、読み書きができるというのがほんとに驚きだったようでございますね。しかし、紫式部の源氏物語一千年の歴史で、だいたい昨年、一昨年と話題になっていましたけれど、そういう非常に文化水準が高い国だったということが、まずありますね。

それから、非常に知的、理性的ということと、道徳、倫理観というものが非常に高いということ。それから、礼儀正しい、清潔である、衛生観念が優れているということ。それだけに、皆さんが日本人に対してほんとに感心しているんです。ザビエルはもちろん、他のアジアと同様にキリスト教を布教して、いずれ植民地ということも外国の方は考えたと思うんですけれども、キリスト教を布教するところではないと。日本には素晴らしい、仏教、儒教、神道があるということで、キリスト教を広めようということよりむしろ、この素晴らしい国

に是非、大学をつくり、東西の文化、思想、宗教の交流の拠点をつくるべきだとローマ法王に書簡を出している。それにものすごく私は感動しております。

なぜ日本人はそうなったのかということなんですけれども、もちろん教育だと思います、小さい頃の。家庭の中の教育と寺子屋教育だと思います。やはり社会そのものが、大人がみんな、自分の子どもだけではなく、全て地域の子どもは自分たちの子どもとして育てたという、日本人のいいところがあったと思うんですね。幕末から明治の初めもずっと、初めて日本人を見た人、また日本人が使節団で向こうに渡ったとき、ちょんまげで着物で腰に刀を下げているということで、道の両側にみんながたかって見て、そこを行列して日本人が歩いたというそのときに、姿かたちは外国人のほうが立派で日本人のほうが小柄で貧弱だったでしょうけれど、その威風堂々とした自信にあふれる彼らの顔つき、態度に本当にびっくりしたと。

つまり、一人一人が日本人であるという誇りと自信を持っていた、それが「品格」につながったのではないかと思うんです。そうしますと、現代の日本人を考えたときに、はたして日本人としての誇りとか自信を持った、生き生きと目を輝かせている子どもたちがいるかという、何かくたびれ果てて「ほんとにこの子たち子どもかしら」とがっかりするような、生き生きとしていない子どもたちがあまりにも多いということにすごく胸の痛みを感じております。

その辺から考え直さなくてはいけないと思ひまして、今、蒲島知事が教育ということに力を入れておられますが、文科省のもとにある、いわゆる公立の学校では、なかなか簡単に知事の鶴の一声というわけにはいかないと思ひました。まずは私立からでないと、すぐに具体化できないと思ひました。細川が知事の頃に、県民運動「熊本スピリッツ運動」を起こしたのは覚えておられると思ひますが、小泉八雲が残した「善良、簡易、素朴を愛し、日常生活の中での無用の浪費、贅沢を慎む心、これが熊本スピリッツだ」と。明治の熊本にやってきて、小泉八雲先生が感じた熊本の精神というのはこういう精神だと。知事の頃ですから25年くらい昔ですから、まだ日本全体が右肩上がり、どんどん成長して、やはり経済第一という、物の豊かさ、便利さに向って進んでいたときで、大量消費、大量生産という時代にそういうことを話しても、一部の方にはご理解いただきましたけど、広く県民運動にはなりません。私は、今の多くの日本人は、ほんとに価値観をひっくり返さないと、もう完全に転換させなくてはならない時代に来ていると、ほとんどの方が思っております。ですから、今ならそういう昔に戻るということに賛同してくださる方が多いのではないかなと思っております。

まだたくさん言いたいことはありますが、最初はこのくらいにして、あと一つ、坂東先生のおっしゃったことに非常に重なりますが、その中の一つですけれども、世の中のこれからの行き筋(道)で、必ず弱者の方たちの視点を入れたほうがいいと。私自身、ご存知のように、特に知的障がいのある方たちと、20年近く活動しております。私は、熊本はあくまでも農林水産業、第一次産業に帰るべきだと思っておりますし、熊本がほんとに誇りに思える財産は、この自然であり、文化、歴史であり、そういう本当に恵まれたものをもっと活かさなければならない。今、オリーブの栽培を始めておられる、そういうところにもぜひ障がいのある方たちをもっと巻き込んで、何かをするにも必ず、高齢者や障がいのある方たちも視野に入れていただきたい。

社会では、今までの価値観ではあまり役に立たない、むしろ社会から排除されて置き去りにされている、そういう方たちが、実は社会にとって必要な人たちなんです。そういう方たちを排除してきたからこそ、こんな恐ろしい、思いやりのかけらもない、人間の絆を無くした日本の社会になってしまったと思います。一人だけでは生きにくい、そういう弱者の方たちがもっともっと社会に参加することによって人間の絆というものが自ずと結ばれるようになりますと、社会そのものが思いやりあふれる、優しさ、ある意味の「品格」というものが必ず生まれてくるのではないかと。

私はとにかく障がい者が主役になる社会にしたいというので、今、一生懸命活動しております、特に学校の教育の中にそれを入れていただきたくて、公立の学校に片っ端からお願いして実際にいろんな活動をしておりますが、簡単ではございません。それで、今年からは、少し私立の学校にアプローチをしてモデル校をこれから作りたいと考えているところでして、熊本の大学や高校に、今から片っ端からお願いにあがろうと思っていたところでございます。今度、そのことに関しても、ちょっとゆっくりお話する機会をいただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

【蒲島議長】

ありがとうございました。熊本の品格と歴史、これに対して細川家が代々貢献されたことに心から感謝申し上げます。永青文庫を含めて熊本城も、それから歴史に関して、私がつても誇りに思うのは、その時代からつくられたのが大事にされている。それをどのようなかたちで皆さんに波及効果をもたらしていくのかということが、今から観光の面でとても大事だと思っております。では、松島さんお願いします。

【松島委員】

私の前のお二人の方の大変品格あるお話の後で大変、とって、その前の方が品がなかったとは言わないんですが、品格について非常に熱い思いを語られたということで。これについて議論するのは、私も言いたいことはたくさんございますが時間の関係もありますので、もう少し私に適した品のない話をさせていただきたいなと思っております。

今年の冬、私、数年ぶりに熊本でお正月を過ごしました。熊本で三社参りにも行きましたけれども、やはり熊本で暮らすといいところがたくさんあるなという思いが改めていたしました。温泉、それもかけ流しという温泉がたくさんありますし、また、水も、阿蘇の方で、あまりまだ人に知られていない穴場を発見しまして、聞いてみるとそこはミネラルが一番高いところだそうで。でもまだ、ほとんど人は来ていないところでありました。先程、橋田さんから、中国に輸出できないのかというお話がありましたけれども、私もむべなるかな（もっともなことだ）と思いましたが、聞くところによると、中国の人は、もう日本の山を買いに来ているそうです。初めは水を狙って山を持つということのようですけれども、それが2年、3年たつと、転売されて非常なコマーシャルイズム（commercialism = 営利主義）になってしまう可能性もある、それくらい事態が進んできているという話を聞きました。

それから、お城にも行きました。改築されたお城は非常に立派で、お正月で天気もいいこともありまして、明らかに県外、県外だけではなくて海外からの方もたくさん来ていたと思っております。熊本の正月、久しぶりにいい、心豊かなお正月を過ごすことができたということで

あります。

私これまで、農業とか観光について熊本の力を発揮すべきだという主張をしてきたと思いますが、それについては先程のお話のように、いろいろとフォローアップしていただいているということですので、これは引き続き、もっともっと実現に向けて努力をしていただきたいということを申し上げたいと思います。

今日は、新年ということもあって、二つのプロジェクトを提唱してみたいなと思っております。プロジェクトというのはバブルの時に非常に流行りましたが、今はあまり流行らないかもしれません。私が申し上げたいのは、プロジェクト先にありきで、なんとかパークをつくるとか、そういうことが重要だから申し上げているのではなくて、「品格あるくまもと」、あるいは、これから先、熊本がどう生きていくべきかということを考える場合に、具体的にコンセプトを考えていく一つの枠組みを考えたいほうが、もう少し分かりやすいものになっていくのではないかと。鉄道とか道路を建設するというのも、従来そういうものをつくった後で何かそこに持ってこようという考えであったかと思うんですが、むしろそれより前に、熊本のほうでこういうものを構想している、そのためにはこういうハードも必要だというように考え方を逆転させたほうがいいのではないかなと思います。また、その方が県民に考える力も与えるし、喜ぶことも与えるのではないかなと思うわけです。極論すれば、実現しなくても、その考えるプロセスだけでもだいぶ違うのかなと思います。一つは、知事の提唱されております「州都構想」。もう一つは、ネーミングはもっと工夫したほうがいいかもしれませんけれども、「アジアを中心とする国際インテリジェンス・シティ」という二つを少し考えてみたらどうかなと思います。

前者について言えば、確かに夢物語であるかもしれません。ただ、新しい鳩山内閣でも、かなりこれは政府の案としてやっていこうということでありまして、考えると普通は、第一に北海道。しかし、北海道は一つの県でありますから道州制といっても今とあまり変わらないわけですね。そういう意味で、地理的にも、くくりとして九州が北海道と並んだパイロットの(Pilot = 先行した)モデルになるのではないかなと思います。その場合に、従来の日本の経済というのは、政治も経済も一極集中できて、非常にリスクの高いシステムになっているということを考えますと、九州では、例えば、政治・文化・歴史は熊本、経済は福岡というような機能の分散ということも十分あり得るのではないかと。ヨーロッパにおいても、欧州の共同体は、州議会はストラスブルクにありますし、欧州委員会はブリュッセルにあるということで、いろんなリスクの分散を図っているわけでありまして。それから、アメリカを見ても、ニューヨークとワシントンD.C.の分化がありますし、隣の中国も北京と上海という、二つの点で一つの地域を支えるというような考え方というのは、二十一世紀を先取りする考え方としていろんな支持も取りつける要素は十分にあるのではないかなと思うので、あまり夢物語ということではなく、具体的に熊本が州都になるとしたらどういうことが必要かというようなことを少しシミュレーション始めてもいいのではないかなというのが一つです。

それから、第二点は、日本全体がアジア無くしては、好むと好まざるとに、いきいけないということですから、ましてや、九州、特に熊本は、アジアと一体という感じをもっと強く出したほうがいいのではないかなと思います。そういう面では、姉妹都市もあるでしょうし、知事の色々な海外の、特にアジアの、中国の大学とのコネクションもあるかなと思います。そういうところと共同してシンクタンクなり、学校を設ける、謳い文句としては、中国語、英

語、そして熊本弁を学ぶというようなことも一つあると思います。あるいは、中国、韓国への企業進出とか輸出とか言っても、中小企業の方はなかなか分からない。そういう面では、そういうガイダンスをそこでやる。あるいは、先ほど斉藤さんが言われましたような医療でも、例えば重粒子によるガン治療のような非常に高度なものをそこに持って来るとかですね。その患者については別に日本だけではなくて、先生もアジアから来てもらう。その主体としては、産、官、学、プラス市民というようなことで、もっと裾野の広いかたちでアジアとのいろんな面での協力を具体的なかたちで実行していく場をつくっていく、それを県が大きな意味でサポートしていくというようなことを、今思いつくまま申し上げましたけれども、もう少し具体的に考えていくと、アジアとの関係もより深まっていくのではないかなと思います。

【蒲島議長】

ありがとうございます。一巡しましたので、あとは自由に、早く言ったほうが勝ちというかたちで討論を進めていきたいと思います。その代わり短く、1人1分くらいでお願いします。

【小栗委員】

いちばん最初で、言葉足らずでしたので、少し補足をさせていただきます。一つは、ものづくりですが、私はやはり必要だと思うのです。ものづくりといっても先端的な分野、省エネや環境関係、こういう分野は、これから新しくイノベーション（innovation=技術革新）が始まる場所ですから、積極的に取り入れて熊本の地に根付かせる。そして、そこはやはり単純に根付かせるのではなく、研究施設等に相当の投下をして高度な技術を集積し、それを今度はアジアに展開していくということが、熊本にとって非常に大事ではないかと思っています。

それと、もう一つ申し上げたかったのは、先ほども崎元先生がおっしゃったように、拠点性を高めるためには、やはりインフラ整備が必要だと思います。特に、熊本というか、九州全体として横軸が弱い。九州を面で考えていろんなことをやっていかなければならないけれども、そのところが非常に弱いために、どうしても単県別になるきらいがあると思うのです。その点については、この4カ年戦略に謳ってありますが、ぜひこれをきちんと立ち上げていっていただきたいことが大切であると思います。

それから、医療について先程からお話しがでておりますが、熊本は相当充実した医療を今までも維持しています。その特徴をこれからいかに九州全体に展開していくかということが大事だと思います。特に、病床数は10万人に対し、病院は全国3位、診療所は4位、それから看護師や准看護師数も5位等非常に充実していますから、そういう点を活かして、定住圏構想等の拠点性を高めていく。このようにいろいろな面でやはり熊本というのは素晴らしいところで、みんなが誇りを持って九州の拠点を目指していけると考えております。

【姜 委員】

さっき、私のほうは新幹線の話だけしたんですが、基本的には、やはり、いいアイデア、政策を実行していく場合に、政治学者である知事にこんなことを言うと何ですけれど、政策

過程と権力過程と二つあると思うんですね。我々は、そういうアイデアを出すわけです。けれども、問題は、それを実行できる権力過程が今後熊本県としてどのくらいできるかと。それはやはり、かなり政治力が必要なことで、それは、県知事としてやれることと、それからもう一つ、リーダーシップを発揮して、私は「九州E U型構想」なんていうのを言ってるんですが、やはり道州制度ですけれども、ミニチュア的なE Uを九州でつくる。その場合に、将来的に国からの地方交付税を九州全体としてプールして、それをどうやって効率的に九州全体に配分していくかという。やはり私たちの目から見ると、九州というのは結局、お互いに足の引っ張り合いをしてるんですね。重複しているものが多くて。ゼロサムゲーム的なことを九州でやっている限りは、やはりだめなんじゃないかと。

九州全体を一つの面として考えて、それを引っ張っていくために、例えば、知事がリーダーシップを発揮される場合に、熊本がどういうことでアドバンテージを持っているか。それは、熊本が九州の地政学的な中心だということと、もう一つあると思うんですね。それは何かというと、やはり熊本に交通体系、人の移動の何かコアをつくらなければ。だからこの間、共同通信の関係で、「前原さんは羽田うんぬんと言っているけれども熊本にも来なさい」と書いたんですよ、「熊本ハブ構想」。それは、飛行場ではなくて、陸のハブ。それは可能なのではないかと。さっき松島さんが分散型とおっしゃったんですけれども、まさしくそうで。安倍さんとは僕は考え方がかなり違っていましたが、彼が言った「アジア・ゲートウェイ構想」は正しいと思います。その「アジア・ゲートウェイ」に九州がなるわけで、その扉に熊本がいるということは十分あり得ると思うんですね。そういうアドバンテージを持って、九州全体を一つのユニットとして考えていくイニシアティブを当然取り得るし。だから行政、もしくは、九州パラメント（parliament=議会）がE U型でもしできるなら、僕は、当然熊本にと。もちろん、福岡、博多が経済、財政その他の中心になるかもしれませんが。

いずれにせよ、そういう力をどうやって、ここで素晴らしいアイデアがあっても、それを具体化していくためには、なかなか熊本県だけではできない部分と、できる部分があると思いますけど。私は、例えば、韓国、中国も合わせて、熊本がメッセ（Messe=見本市）、もしくはコンファレンス（conference = 会議）の一大センターになってもいいのではないかと。具体的に言うと、ドイツのバーデンバーデンですね。バーデンバーデンは言うまでもなく温泉地で、保養地で、先程斉藤さんがおっしゃった医療、そして国際的なオリンピックやいろいろな会議の場を提供しているわけですよ。それはできるのではないかと、熊本であれば。ですから、是非そういうかたちで、熊本が一つのコアになって、そこでやはり…。ざっくりばらんに言うと、知事には3期やっていただいて、これから10年、「九州E U構想」をやっていたきたいなというのが私の中長期的な希望ですけど。

【蒲島議長】

ありがとうございます。知事になる前は、もっと権力があるものかと思っておりましてけれども、なかなかそうでないということがわかりました。どうぞ、皆さん自由に。

【斉藤委員】

先程ものづくりという問題点を私が申し上げたので、崎元先生からちょっとコメントがありました。私はかなり真剣に、伝統的なものをつくっても日本そのものの将来がないと思

っているんですね。やるならエコロジカル・インベストメント（ecological investment = 環境投資）だと思います。エコロジカル・インベストメントは成長ソース（source = 源）としてあると思うんですけど。話が飛んで何ですけど、金融バブルが発生した原因というのは、結局、ものをつくり過ぎていて吸収できないんですね。だから、何をやったかという、ありもしない金をつくった。そうしないともものは吸収できないくらい、デフレ構造を世界はもう持っているということなんですね。だから、二台目の自動車を売ろうとか、三台目の自動車を売ろうとか、セカンドハウスを売ろうとした結果、金のない人に金をもたせるしかない。しかし、元金はないですから、リバレッジ（leverage = 借入金によって投資を行い高い利潤率を見込むこと）を掛けたわけですよ。これがフェイル（fail = 失敗する）したと。日本はもう20年間デフレです。日本の株は、20年で70%値下がりしています。また、20年で日本の土地は95%値下がりしているんです。菅さんが言う前から、とくに過剰生産に陥って需要がないんです、日本は。そこで、伝統的な電気洗濯機とか自動車とか、そんなものつくって、それはもう賃金が全然違うんですから競争になりません。日本のメーカーは中国やベトナム、インドネシアでつくります。そうしないと利益は出ない。そういうファシリティ（facility = 施設）を熊本へ持って来てものをつくろうとしても、私は、熊本の将来はないとはっきり思います。日本そのものが既にそういう問題にぶつかっている。

それから、もう一つは、まさしく私は、羽田のハブというのに対抗して熊本のハブというのは考えたいのですが。姜先生がよくご存知のとおり、例えば、産業再生機構時代に長崎に私、飛行機を飛ばしました。そしたら、長崎知事から、わざわざ飛ばしたのに「何でわざわざ羽田から飛行機を飛ばしてくれたんだ」と言われました。長崎の人、例えば、島根とかあちら側の方は、ヨーロッパとか海外に行くときは、みんな韓国へ行かれるんです。わざわざ国内便で羽田へ行って、一時間か二時間かけて成田へ行って国際線に乗るような日本人は誰一人としていないんですよ。既に日本海側の県の方は、韓国の飛行機がみんな地方の空港に入っていますから、それで仁川に行って、しかも、乗り換えは国際登録がすぐできますので、熊本の方もヨーロッパへ行かれるときは、羽田、成田なんて行かれないですよ。みんな韓国へ飛ばれて、アメリカやヨーロッパに飛んでおられる。既にこれは日本の戦略が失敗しているんですね。

ですから、できたら「熊本ハブ」とは思いますけれども、なかなかこれは難しいなと思いつつもですね、ただ先程申しましたように、何でこんなバカなことになったかという、これは日本の航空行政の失敗ですよ。韓国の飛行機はこちらに入って来られるようにしたものの、日本のお客さんは韓国の飛行機に乗るけれども、日本の飛行機が韓国に行っても韓国の方は乗れないだろうというので、逆の政策は打たなかったんですね。その他に、いろいろな細かいルールをつくってありまして、そのために、韓国と日本間に自由にルートが引けない。これを引けるようにして、熊本ハブと仁川のハブをつなぐというくらいのことを考えたらどうかなと思いますけれどもね。

【崎元委員】

あまり議論をするといけないんですけども、産業について考えているのはおっしゃるとおりなんです。環境とか省エネとか、どこでつくるかは別として、ある程度先端性を切り開いてやるというのが資源のない国の一つのやり方だと思うんですね。だから、今、県とか大

学でやっているマグネシウム合金についていえば、自動車の時代がどれくらい続くか分かりませんが、例えば、1リットルで福岡まで行ける軽い車をつくるとか、そういう夢を持ってやっている部分があります。

それから、二つめの太陽光発電のことにしましても、自然エネルギーというかたちでやろうとしています。もう一つは、今回予算がつきました県の産業技術センター等でやっている有機ELですね。有機ELというのは、この部屋の天井にある白熱球、蛍光灯の次の世代をいくものですから。斉藤さんがおっしゃるように、どれくらい続くか、どうせまた負けるということになるかも分かりませんが、有機ELとか、青色ダイオードとかによって、どれだけ日本の電力が節約されていくかというのはあると思うんですね。そういうベクトルとか、ものづくりにしても、そういうものに限られるんだらうということで、おっしゃるとおり、重厚長大といえますか、そういうものではないのは明らかだと思います。

それから、大学の関係で申し上げますと、姜先生が言われた道州制に関連しますが、九州でまとまるというのを先行してやれと言われていたんです。九州の各国立大学の連合体をつくるという発想ですね。これは小さなEUということで、比較的簡単だと思うんです。各学長が「よし、やろう」と言えばできるんです。私、在任中から何度かそういう提案をしているんですけれども、まだまだです。一緒になると言っても、イメージはカリフォルニア大学的なもので、各地に存在する大学がそれなりの特徴を持ってやっていくわけです。熊本大学なら医学部とか工学部とかを特徴にするとか。ある経済界の人が変なことを言ってちょっとおかしくなったんですけれども。こういう大学間連合の動きは、当然道州制より先に起こるべきことだと思っております。ただ、それが州立大学になるか国立大学のままでいるかというのは非常に問題で、これには税の移譲が必要になりますし、九州の国立大学の運営費交付金、今、国からの助成金が琉球を除いて約1,600億円、施設整備とかを入れると1,800億くらいになるんですね。それでやると東大の2倍です。それで東大と国際的に勝負するかという発想はあるかと思えます。

それから、ちょっと細かいことなんですけれども、ここでのいろんな提案に対して、先程ご紹介いただきましたように県でも取り組みをしていただいているんですけれども。国立大学が法人化して少し動きが出てきたのは民間的発想の導入です。そこで、県におかれても民間の人をもう少し登用することを考えたらいかがかと。ここでの提案から生まれてくるプロジェクトをやるときのコーディネーターとか仕掛け人を、民間の人、斉藤さんなんかは高給過ぎて来てもらえませんが、そういう人がプロジェクトを動かすというような仕組みをつくられると、これはかなり動くのではないかなと思います。県庁職員のプロジェクトチームだけではなく、そこにドライブをかける人がいればという気がします。

それからもう一つは、県でどれだけ財政的な余裕があるか分かりませんが、国がよくやる手なんですけれども、住民とかNPOとかですね、NGO、あるいは大学もあっていいんですけれども、そういうところ向けに、何か提案公募をするお金をつくられて、例えば農業を始めるときのきっかけをつくるような動きとか、そういうことに対して県が支援をする。民間からのコーディネーターがまた、そこに拍車をかけて動かすという仕組みで、何か一つずつものごとを進めるということをやっていたらいいかなと思います。

【蒲島議長】

時間の関係がありますけれども、ここまできたら、最後まで全員2回まわるということで、橋田さん。

【橋田委員】

姜先生もおっしゃいましたけれども、新幹線が開通します。私は福岡におりますので、現在、福岡が非常に力を入れているのは、ソウル新幹線が釜山に入り、鹿児島まで行くのにソウルを朝出て昼過ぎには着くという中で、福岡の位置をどう活用しようかと我々は思っています。当然、また広域的に韓国と九州はつながります。そのときに熊本をどう位置づけるのか。例えば、熊本止まりの新幹線を大阪から出すというのもあるでしょうけれども、もう少し点在する九州の観光資源を一本化して線をつなぐ。前から言われておりますが、なかなか実現しないのです。確か4、5年前に我々で観光推進機構もつくって、一応各県の予算が全部ある程度は、一本化されておりますが。

例えばハウステンボスの問題が出たときに、我々は観光推進機構を使って、九州のハウステンボスは九州の宝ではないか、あれを朽ち果てさせてはいけないということで、問題を提起しました。けれども、九州知事会でもあまり取り上げてもらえないような感じでもない。結局、長崎、佐世保は福岡が地元だっという感じですね。福岡の経済界に力を貸して欲しいと言われ。本当は、我々は長崎、佐世保の地元ではありませんが、九州の宝物を朽ち果てさせてはいけない。応援しましょうということになったのですが、結局、牽引する人がいないから、ハウステンボスを福岡の地元経済界でどうにかしようと思っても、誰かが3割か4割くらいの出資をして牽引しないとうまくいかないのです。したがって、誰かやらないかとなったのですが、あれだけの規模がありますし、俺がやるというところまではなかなかいかない。それで結局はバックアップしようということになって、まだH I Sがどうされるのかははっきりしていない現状です。自分はそのときに思ったのですが、明日は我が身と。例えば宮崎のシェラトンだっと同じ。ハウステンボスだけではなく九州全域にある非常に重要な観光資源も明日は同じだと思えば、こういうときこそ「九州は一つ」ということで一体感が出ないのかなと思います。卑近な問題としてはそういうことを考えました。

道州制の問題を考えるならば、観光とか農業、一次産業なんかで連携して、一体感を持つほうが本当は早いのではないかと思います。是非、蒲島知事も音頭をとっていただき、今まで「九州は一つ」と言ってきたわけですから。「九州は一つ一つ」ではなく、それを熊本から発信していただく。観光資源として最も魅力的なのは福岡にはあまりない、やはり熊本が一番たくさんあるのではないかと思います。福岡は今度、1年間で中国から7万人の観光客が来ます。博多湾にです。もう70隻くらい予約が入っているのですが、1船あたり900~1,100人くらい乗って来るのです。その前が27隻でしたが、倍々でくるような感じですね。私に言わせると、博多湾に来て、買い物には来るのですが、中国の内陸部の人、海を見たことがない人たちとか、臨海部にいても泥海しか見たことない人たちが博多湾に来るとすごく感激されます。海はこんなにきれいなのかということを感じるので。では、天草などに連れて行ったのならば、もう仰天するのではないかと。やはり是非観光に力を入れていただいて、我々も出口、入口が福岡ですから、福岡から是非熊本に行ってくださいと応援できるのではないかと思います。

【坂東委員】

今の中国との連携、人の交流を進めたほうがいいというお話ですけれども、それだけではなしに、熊本にもアジアからの留学生を惹き付けるような教育機関を是非おつくりになるといいと思います。先程、中学生、高校生については、日本人の中学生、高校生を頭において全寮制ということをお申しましたけれども、今後、例えば中国やシンガポール、シンガポールはもう自前でかなりすごいエリート校をつくってしまっております。アジアに目を向けて人材養成をするということをお強くおっしゃったらいいいのではないかと思います。人を育てるときには誰かがほんとに中心になって「やろう、やろう、やろう」と言ってアピールなされると、みんな「そうか」と寄ってきますから。是非知事が、熊本は人を教育するのに、育てるのに最高の場所で、最高の教育を与えますということをおアピールしていただきたいなと思います。

それから、特に熊本の女性たちというのは、火の国の女性たちは、本当に情熱的というか、パワーをお持ちの方がたくさんおられます。そういった人たちが、先程は70代の方たちが子どもたち、中学生、高校生にマナーを教えるような塾を市町村ごとにつくるといったようなイメージでお申し上げたんですけれども。そうした熊本の女性たちが、アジアから来た人たちの世話役、ホストマザーになるとか、そういったかたちで自分の家族だけではなくに。自分たちのためだけにエネルギーを使うのはもったいないと。もっともっと、いろんな場に彼女たちのエネルギーを使う機会をつくってあげれば。舞台づくりが、そうしたエネルギーを発揮するうえで一番大事なのではないかという気がします。どういう舞台があるのか、やはりよそから来た人をもてなす、世話をする、あるいは、いろんな問題を抱えている人の支え手になるというような機会をつくる。NPOとか起業とか、そういった場でコンペをするとか公募するというようなかたちで女性達が力を発揮する舞台をつくるということに、ぜひ力を入れていただけたらいいと思います。

【細川委員】

先程申し上げましたが、第一次産業をもっと大切にしたいと、それが盛んになることが、これからの日本にとって大事じゃないかなという思いですが。口ばかりではいけないと思ひまして、私まずはお米づくりを始めようと去年、決意しました。インターネットで娘と必死に探しましたところ、南阿蘇の農協でしょうか、地元の組合が水田オーナーを今年から募集しているということがたまたま分かりまして、それに申し込みまして、一応私300坪の水田オーナーになりました。田植え、稲刈りはオーナーが原則的にはしなくてはいけない、できることなら途中の雑草取りもしなくてはいけないのですけれども、どうしても遠隔地に住んでいてできない場合は、組合にいくらかのお金を払ってやっていただくと。説明会にはまだ参加してないので詳しいことは分かりませんが、まずそこから始めていこうと今、動きだしたところなんですけれども。

私、考えますに、熊本の小学生、中学生が学校単位で水田のオーナーになって、そして週末に水田に行って、田植えをしたり草取りをしたりということをして、それを給食のごはんに使うとかいうふうにして。子どもたちが、農業を身近に感じ、実際に体験をして、そのありがたさとか達成感とか喜びとか感謝の気持ちというものを、自ら体験を通してたくさんのお話を学んでくれるのではないかなと思いますので、ぜひそういう学校を増やしてほしいなと。

それから、今、里山がどんどん無くなっていく。熊本は、本当に水が素晴らしいですけども、このまま放っておいたらどんどん地下水は下がって行って。私の家の泰勝寺の庭にも湧き水があったんです。ところが、5年前から完全に涸れてしまって。泰勝寺の公園のほうの池も、戦後まで湧いていたんです。ですから、あの池はいつもきれいで流れていたはずなんですけれども、残念ながら今は涸んでしまって、全く汚い水になっています。そのように、いくら熊本は水が自慢であっても必ずどんどん涸れていく。水前寺公園然りです。

ですから、やはり森というものと関係しているということ子どもたちに学ばせて、みんなで森をしっかりと守るという教育もして、そして実際に足を運んで、草刈りをしたり、いろいろとすることによって愛着を感じ、子どもたちがいろんなことを学んでいくと。環境問題とか、知識だけを、教室で座学の勉強をしても身につかないので、ぜひ体験をたくさんしてもらいたい。それが私の小、中学生への願いでございます。

【松島委員】

私、先程時間が無くて説明が足りなかったと思うので、「アジアを中心としたインテリジェンス・シティ」ということについて、もうちょっとコメントを加えたいと思います。

今、日本に留学生12万人いますけれども、そのうち6割が中国人だと思いますが、会ってみると結構日本で仕事をしたいという人が多いんですけれども、なかなか職場がないという話を聞きます。ですから、先程の構想の中で、そういう方にスタディーする、あるいは仕事に就いていただく機会を与えるという場にもなると思いますし。それから、中国の方もベンチャーを始めようとしている方もいらっしゃるわけです。したがって、国籍を問わず、ベンチャーの方が何か仕事をしたいといったときに熊本県がそれを育てる、インキュベーターの役割をですね、それをインテリジェンス構想の中でやっていただくというようなこともあり得るのではないかなと思います。

そして、最後は、ITの話ですね。いろいろとハードのほうのネットワークをつくるのも重要かと思いますが、やはり私はそれ以上に、ITのネットワークをつくるということが非常に重要だろうと思います。斉藤さんが言われるように、日本ではものづくりというグリーン投資を除いて設備は3割は過剰だと思うんですね、既に。3割は廃棄しないとだめなくらいの状況になっていると思いますので、ものづくりはグリーン投資ということになると、やはり、ものづくりじゃないところで日本の生きる道を見出さなくてはならない。

そう考えますと、まずITリテラシーを上げていただくということですね。これもずっと言われているのですが、各学校を見てみると、本当に生徒が喜んで飛びつくような教え手、きちんとそういった教え方をしていただけるような先生がまだ少ないと思うんですね。子どもたちはゲームで、ものすごくそういうものに慣れてきている。しかし、今のままだとゲームだけで終わってしまうので、それをもう一段レベルを上げてやっていただく必要があると思いますが。ITというのは、これから我々のライフラインにもなるわけですし、農業も観光も、先程の話も、なぜ水田を阿蘇に借りたかという、ITがあったから借りられたわけですね。そういうことによって、見えない、すごく大きなマーケットを相手にいろんなものが進めていけるわけでありまして。是非目に見えるようなかたちで、ITをもっともっと熊本でレベルを上げていただきたい。そういう受け皿として、さっきも申し上げたようなインテリジェンス・シティ構想もあり得るのではないかなと思います。

【蒲島議長】

議論は尽きないんですけども、これだけ論客の方々がいらっしゃって、ここで止めるのは大変残念でありませんが。私の総括ということはここでは時間の関係でやめさせていただいて、一つだけ。この未来会議で議論されたことは、熊本の政策に非常に大きな影響をもたらすと。細川さんの御主人の細川元首相から、一つだけ具体的な提案を前に会ったときにいただいています。それをここで紹介したいと思います。

それは、水前寺から江津湖にかけて、素晴らしい「水の道」があります。京都には「哲学の道」というのがあるんですけども、あれよりも素晴らしい道があると。それを「漱石の道」と名付けたらどうかというご提案がありましたので、あえてこの未来会議の席で出させていただきます。そうしたら県庁もしっかりと検討すると思いますのでよろしく願います。どうもありがとうございました。